

あなたと 青山学院



地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院スクール・モットー

30万人の卒業生と母校をつなぐ「絆」

2012. WINTER No.8

今号の聖句 初めに、神は天地を創造された。 In the beginning when God created the heavens and the earth. 創世記 第1章1節

年頭に思う

青山学院院長 山北 宣久



「世の万人の救い主よ お願いしませ
これから私たちを見捨てず
この年も 私たちを守ってください
火事、疫病、そして戦火から。
あなたのみ言葉、そして明るい火を
清く まじりけなく 強く燃やさせてください
いつ いかなる時も すべての身分の人たちに幸福と救いをあたえてください。」
J.S.バツハ カンタータ第171番『神よ 御名のごとく 汝の栄光は』より

ともに、新しい年を迎えられたことを感謝し、校友の皆さま方の祝福を心からお祈り申し上げます。まことに祈り、祈られながらこの年も歩み行きたい、いや行かざるを得ないというのが私たちの実感です。

3.11の大震災に見舞われた日本にあって青山学院は、学生のボランティア活動を中心に、広範な支援活動、募金、チャリティコンサートなどが重ねられました。これにより人と人が助け合う優しさや、温かい何かが生まれた年ともなりました。

身ひとつで避難所生活をしているご老人が「物を無くしたが、人の心を拾った」と語っておられましたが、そうした世界の中心に私たちは生きて行きたいです。

この年は青山学院にとって大きな変化を経験します。大学17号館が完成し、約7,000名の学生が青山キャンパスに移る態勢が整えられます。人事面でもそちこちで大切な交代期を迎えます。

それゆえにこそ変わらねばならぬもの、変わってはいけないものを見極める知恵を必要とします。そして、それは神と人を結ぶ垂直の線と、人と人を結ぶ水平の関係のバランスをキチッと取ることに、私たちの立ち位置を定めることからもたらされるのでしょう。

拡大路線を意識的にとってきたわけではありませんが、青山学院もいつしか大きくなりました。先人たちの尽力に感謝の思いをあつくします。大世帯になるとどうしても目に見えることだけに気をとられがちになりますが、見えざる世界にこそ思いを向けねばなりません。コリントの信徒の手紙Ⅱ 4章18節の言葉「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです」。

本多庸一召天100年を記念して記念会議場が大学17号館に設けられますが、かつて本多庸一はこのように言いました。「どちらかといえばどうでもよいこと」(条件之至便宜)と「これだけはどうでもよいというわけにはいかなこと」(本質)を見極めることが肝要。ここに彼の面目があり、コリントの言葉の理解が映し出されているといってもよいと思えます。

いついかなるべきかを弁(わきま)え知りぬ身であります。

しかし、それゆえにこそ主の赦(ゆる)しと期待のうちに与えられている「今年」そして「今日 いま」を生かしてともに前向きに歩み続けようではありませんか。重ねて祝福と導きを祈りつつ。

辰年に因んで

青山学院理事長 半田 正夫



明けましておめでとうございます。

2012年の新春を皆さまはどのようにお過ごしでしょうか。今年は辰年、つまり十二支の中で唯一架空の動物である竜の年で、昔から瑞雲を呼ぶ年と言われております。この1年、青山学院関係者のすべての人にとってすばらしい年になるように願ってやみません。

皆さまご承知のように、2011年はなでしこジャパンの活躍によってわずかに救われたものの、大部分は3.11の大震災によって重苦しい1年であったような気がします。

青山学院も影響を受けて大学17号館の建設が遅れ、そのために2012年春に予定されていた理工学部と社会情報学部を除く7学部の1・2年生の青山キャンパス移転は1年延期せざるをえないという予想外の結果となりました。2012年に青山キャンパスで学べると期待して入学した新1年生には大変迷惑をかける結果となったことは、不可抗力のこととはいえ申し訳ない気持ちでおります。また、教職員の方の中には、大学17号館の建設を機に飛躍的な発展を遂げようと意気込んでいただけに水を掛けられたような気分になっている方も多いかと存じます。

しかし、考えようによっては、青山キャンパスへの移動という大きな事業を円滑に遂行するための十分な準備期間が与えられたものであると、とらえることもできましょう。尺取り虫が伸びる前に一瞬縮むように、天を駆け巡る蛟竜(こうりょう)がその前に地に潜むように、満を持して英気を蓄える時期であると前向きに考えるべきものと思われまふ。画竜点睛を欠いてはなりません。慎重にかつ万全の態勢を整えて2013年を迎えることが肝要かと存じます。

とはいえ、青山学院は2012年中まったく動かないわけではありません。大学においては、文学部の中に「比較芸術学科」が新設されますし、女子短期大学におきましても、従来の国文・英文・家政・教養・芸術の5学科を融合してひとつにまとめた「現代教養学科」が誕生して「子ども学科」との2学科体制になります。また、さらに今後の問題として、将来の学生の動向を見据えた新しいタイプの大学図書館の建設、相模原キャンパスに設置する学部、さらには中等部校舎の建て替えの構想など計画は目白押しに並んでおります。これらの事業を完成するには全学あげての一致した協力と校友の皆さまのご協力なしには達成が叶いません。

鯉が厳しい滝を昇って竜になるよう、青山学院の輝かしい未来のために皆さまの絶大なるご支援を心からお願い申し上げます。



CONTENTS

学校法人	院長・理事長年頭のあいさつ	1	校友会	Aoyama Family / プロストリートミュージシャン 中村 健佐さん	12
学校法人	大学学長就任あいさつ・今号の聖句	2	学校法人	Useful Information	13
学校法人	青学ニュース	3	学校法人	青学探訪「オルタークロス(後編)」	14
校友会	支部ニュース	6	学校法人	青山学院からのお知らせとお願い	15
校友会	アイビーグループニュース	8	校友会	校友会本部	16
校友会	部会・同窓会ニュース	10			